



駅員さんの話（石山在住の山口さん）

子どもの頃、家のすぐ近くを走る電車を窓からよく眺めていたという山口さん。豊平駅で駅員をしていた昭和25年頃の様子をこう話します。

「当時は、乗客も駅員も皆顔なじみでした。毎朝発車時刻ぎりぎりに、線路の向こうからあわてて走ってくる常連さんの顔も分かっていたので、その人がやってくるのを待って出発したものです。また、定山溪へ向かう芸者さんに、切符代の代わりにチョコレート置いていたずら顔で逃げて行かれたこともありました。今の時代では考えられないですよ。随分のんびりとした時代だったようです。

また、電車の運行が天候に左右されることもしばしば。簾舞付近の土砂崩れで線路が埋もれたり、大雪で運行がストップしたりすることもあり、職員総出で復旧作業にあたったそうです。「作業は私たちだけでなく、沿線住民の皆さんも昼夜問わずスコップを担いでやって来てくれました。自分たちの使っている電車は自分たちで守る、という気持ちがとてもうれしかったです」。

目的地へ向かうための単なる乗り物というだけでなく、まちの人みんなに支えられ、共に生きていた定山溪鉄道。電車と人、人と人との温かいつながりのある時代だったのではないのでしょうか。

写真：札幌市写真ライブラリー所蔵



▲一の沢橋（一の沢駅～錦橋駅間）
を渡る電車（昭和5年頃）

札幌市写真ライブラリー所蔵

※写真提供におきましては、(株)じょうてつ退職者など、多くの方々にご協力いただきました。

✓鉄道の開通は沿線の人々にう
るおいを与えました。それまで
三軒の湯治場しかなかった定山
溪も、温泉旅館や土産物屋が
次々と立ち並び、「札幌の奥座
敷」へと姿を変えていきました。

蒸気機関車から電車へ

開業当初、白石駅～定山溪駅
までの所要時間は約1時間30分。
車体は小さく力も弱いため、傾
斜の急な所では、一度後戻りを
して勢いをつけてから登ったそ
うです。駅でなくても停車して
客を乗せ、客も車内で酒盛りや
風景を眺めて楽しみました。定
山溪温泉へ向かう行楽客も殺到
し、機関車、客車はフル回転。
輸送力の強化が次第に必要な
なりました。

そのため昭和4年10月、東札
幌～定山溪間を、それまでの蒸
気機関車から電車に切り替えま
した。所要時間は50分に短縮し、
一日3往復だった運行も16往復
になりました。

当時まだ珍しかった大型の電
車。一目見ようと道内各地から
見物客が大勢やってきたとい
います。また、電車は昭和6年7
月に国鉄苗穂駅に乗り入れし、
一層便利になりました。

戦後の定鉄黄金時代

しかし、第二次世界大戦が始
まると行楽客はぱったりと途絶

✓クに切り替えられたため、輸送専用
鉄道（水松沢引込線と選鉱場引
込線）が廃止されました。

昭和41年10月、北海道警察は、
踏切と主要路線の交差による危
険性から、線路の立体化か撤廃
を定鉄に勧告。さらに、札幌市
は平岸～真駒内間の地下鉄建設
を打診してきました。これらを
受けて、定鉄はついに廃止を決
めたのです。

昭和44年10月31日、最終電車
が豊平駅と定山溪駅から出発し
ました。見送るたくさんの人々
を前に、51年間走り続けた定鉄
はお別れの汽笛をひときわ高く
鳴り響かせ、花道を飾りました。

★ ★ ★ ★ ★

石山地区にある石山振興会館
は、当時の石切山駅の姿をその
ままだに、今も人々に利用されて
います。区内に残る定鉄の足跡
は、時の流れとともにそのほと
んどが姿を消してしまいました
が、鉄道廃止を惜しむ声は30年
以上経った今もお聞かれます。



▲豊平駅を出発する
さよなら電車